

教えてください、あなたのことを。⑩

沖縄県那覇市 ^{みやら}宮良 弘子 さん (エコマール那覇プラザ棟)



Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 52歳です。神奈川横須賀市出身です。縁あって沖縄出身の夫と東京で出会い、沖縄に住んで26年になります。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 子育てをきっかけに、食や環境問題に関心を持つようになりました。

第1子を出産した25年前は、沖縄には子育ての情報がほとんどなく、そこで、子育て仲間が自分たちが集めた手作りの子育て情報誌「こだまり」を自費出版しました。「こだまり」は乳幼児を抱える親たちに賛同を得て、第3号まで出版しました。

那覇市がごみ減量啓発事業を始めるために、平成8年に準備委員会を設けたのですが、子どもを持つ親の視点で意見を出して欲しい、とのことで運営委員になりました。声がかかったのは、「こだまり」に関わったことがきっかけです。

その後、資源化物分別施設とごみ減量啓発施設が一体になった「那覇市リサイクルプラザ（現在は、エコマール那覇プラザ棟に名称変更）」の啓発部門の管理運営を「こだまり」を作成した友人と私が担うことになりました。平成9年度から活動を始め、今年度で早16年になります。



宮良さん(右端)とエコマール那覇プラザ棟スタッフ

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A ドイツ在住の環境ジャーナリスト・今泉みね子さんの著書「みみずのカーロ」を読んで刺激を受け、ぜひ沖縄でお話を聞きたいと思い、平成14年に今泉さんの環境講演会を行った際に、今泉さんから貴会のお話を聞きました。その後、「ゴミのへらしかた」などの出版物を購入し、貴会の理念に非常に共感して会員になりました。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 昨年度、「地球環境基金」の助成金を得て、沖縄で暮らす人のためのごみ減量ガイドブックを作成しました。私たちが16年間行ってきた活動内容を、本とDVDにまとめました。(欄外*)特に大きな反響があったのは、那覇市のごみ収集現場のDVD映像です。収集担当の「那覇市クリーン推進課」の職員さんの協力を得て、2週間ごみ収集現場に同行し、10分間の映像2本にまとめました。また、高齢者や障がいのある世帯は戸別に収集し、安否を確認する「アシスト収集」という業務の紹介もしています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A ドイツ特派員の理穂さんのお話を楽しく読んでいます。また東京の取り組みや企業や行政の方々のワークショップの様子も参考になります。今後も長く続けてください。